平成24年度　落合高等学校進路課通信　（普通科版）

風の階段 踏みしめて　～ 自己実現へ向かう道 ～

第 23 号　平成 24 年 10 月 10 日（水）発行

「自分で自分をほめたい」～齋藤孝「コメント力」から、有森裕子の言葉～

前号に続き、齋藤孝氏の著述から引用。前号は「質問力」について考察の一端を述べましたが、今回は、発信力としての「コメント力」について、一考します。
齋藤氏は、優れたコメントの例を、次のように示しています。

1　似ているものを比較する。「比較」がコメントの基本

そういえば、様々な立場の講師が、みなさんの「志望理由書」「自己推薦書」についての見識を述べられたが、基本姿勢は、まずアクションを起こし、対象物の「比較」検討をすることだ、と重ねられていました。似通った複数のものを「比較」することで、相違点が鮮明になります。

2　「～でありながら、…である」というコメント

そういえば、みなさんの読書感想文でも、優れたとみなせるものは、常に、まずは自分自身の解釈・一家言が載せられる。まずは、一般的な評言・評価や価値認識を述べ、そして、本を読破した後の解釈の変更の余地や色づけを述べるわけです。
例えば、檀一雄「わが百味真髄」から。「そういわれてみると、小さいながら、なにか緻密な、馥郁（ふくいく）とした香気のようなものが感じられた。」
「～それでいて、思いがけなく」というパターンも同様。発見を自覚するという意図。
国語で、「失望」について説明するとき、まずは、もともと抱いていた「希望」を述べ、そのことが失われたことによる「失望」感を訴えるのが基本、であるのと同様ですね。

3　「否定語」を上手に用いた表現力

そういえば、キャッチコピーの世界でも、「否定語」すなわち「～ではなく…」という表現が効果的であると言われます。それは、事象をいったん否定することで、それ以外に開かれた世界を志向するということを容易にするからでしょう。
例えば、前述の檀氏の表現。「さて、外地に着いて、おそるおそる飲んでみると、『瑞光』はまことにうまい。辛くなく、甘くなく、さっぱりと舌に澄んで、その水質の桁外れによいことが、口の中で感じられる。」…

＜参考＞　◎人口に膾炙（かいしゃ）した有名なコメント

○答えに窮したとき：「そういう『面倒なもの』は持ち合わせていません。」
　＊映画『男はつらいよ』で、寅さんが「奥さんによろしく」と周囲から痛いところをつかれた時発した言葉。

○ありふれた質問に答えるとき①：「年上の女性」…
　＊泉重千代さん(男性)が、当時長寿世界一になった時、インタビューで「好みの女性は？」と質問された時。

○ありふれた質問に答えるとき②：「強いて挙げれば、『人』を食っています。」
　＊アメリカ人記者に、「健康法は？」と聞かれた当時の日本の首相　吉田茂が放った言葉。

○本質を一言で説明するとき：「天使のように『大胆に』、悪魔のように『細心に』」
　＊日本が世界に誇る映画監督　黒沢明が、映画作りのコツについて、その著書の中で書いている言葉。
　普通であれば、「天使のように細心に、悪魔のように大胆に…」でしょう。

○自分をほめるとき：①「『今まで生きてきた中で』、一番幸せです。」
　＊水泳（平泳ぎ）でオリンピック金メダルの岩崎恭子選手、当時中学生のコメント。14 歳のコメントとは、とても思えません。
　②「はじめて『自分で自分を』ほめたい。」　（ほめてあげたい、ではありません）
　＊マラソンアトランタオリンピック銅メダルの際のコメント。前回のオリンピック銀メダルよりも、人生の困難を乗り越えたこそのコメント力。「うれしい」と言わないで、どう言えるか。困難を乗り越えたこと、人の「在り方生き方」から紡ぎ出された言葉。私たちも、こんなコメント一つは人生で残したいものです。みなさんが卒業時、『自分で自分を』ほめることができるよう、支援を継続していきたいと考えています。